

2017年度未成年者飲酒防止教育“学校コンクール”
全国72校の応募の中から
最優秀賞3校・優秀賞9校・特別賞2校を決定！！

ビール酒造組合(会長代表理事:布施 孝之)は、当組合の活動の一環として、国税庁、文部科学省、厚生労働省など関係省庁および全国養護教諭連絡協議会、全国のPTAなどの団体のご後援をいただき、日本洋酒酒造組合との共催で、全国の小学校・中学校・高等学校を対象に「2017年度未成年者飲酒防止教育“学校コンクール”」を本年7月から9月末日まで実施いたしました。全国の小学校・中学校・高等学校から72点の取り組みを応募いただきました。選考委員会(東ちづる審査委員長)による厳正な審査の結果、小学校部門・中学校部門・高等学校部門から最優秀賞各1校、優秀賞各3校、中学校部門・高等学校部門から審査員特別賞各1校の合計14校を選出いたしました。

このたび、11月19日(日)に東京にて最優秀賞受賞校への表彰式を開催しました。



野村コンファレンスプラザ日本橋(東京)で行われた表彰式／2017年11月19日(日)

前列(向かって左より) : 東 ちづる審査委員長、中村 夏未さん、渡辺 匠達さん、大森 遥嘉さん、
高野 明日香さん、布施 孝之 会長代表理事

後列(向かって左より) : 保田 みどり先生、佐々木 生祐校長先生、鈴木 真由美先生、和久井 功雄校長先生、
内田 卓利校長先生、村山 真紀先生

ビール酒造組合では、2002 年度から「未成年者飲酒防止ポスター・スローガン・学校賞 募集キャンペーン」を実施してまいりました。今年度より、「未成年者飲酒防止教育 “学校コンクール”」と名称を改め、学校としての未成年者飲酒防止に向けた取り組みを募集してきました。学校・地域で、未成年者飲酒が及ぼす健康への弊害などについてより一層の理解促進を図るため、新たに小学校からも飲酒防止教育の事例の募集を始めました。

各部門の最優秀賞受賞校を対象とする表彰式を 2017 年 11 月 19 日(日)に野村カンファレンスプラザ日本橋(東京)で開催しました。当日は、審査委員長の東ちづるさんおよびビール酒造組合・布施孝之会長代表理事より、表彰状・副賞などが授与され、各部門の最優秀賞受賞校の代表者による取り組み発表の後、審査の講評がありました。

当組合では、今後も本コンクールを実施し、未成年者飲酒防止活動を定着させていきたいと考えております。

＜布施 孝之 会長代表理事 挨拶＞

私どもビール酒造組合が日本洋酒酒造組合との共催で未成年者飲酒防止を目的として 2002 年から実施して参りました「未成年者飲酒防止ポスター・スローガン・学校賞募集キャンペーン」を、「未成年者飲酒防止教育”学校コンクール”」と名称を改め、学校単位での未成年者飲酒防止に対する取り組みを募集し表彰する内容といたしました。

これもひとえにご後援を頂戴しております国税庁、内閣府、文部科学省、厚生労働省、各学校関係団体、また、東ちづる委員長をはじめ、お忙しいなか熱心にご審査をいただきました審査委員の皆様方など、関係各位のご支援・ご協力の賜物であり、この場をお借りいたしまして改めて厚く御礼を申し上げます。ありがとうございます。

本キャンペーンは、地域や学校全体で未成年者の飲酒防止問題に向きあい、小学生・中学生・高校生の皆さんが、未成年者の飲酒防止問題について考える意識を高めるとともに、未成年者飲酒が及ぼす健康への障害などの理解促進を狙いとしております。

また、最優秀賞受賞校の「未成年者飲酒防止」に関する優れた活動を発表いただき、全国に紹介させていただくことにより、「未成年者飲酒防止」の教育活動の一助となることを願っております。

本年は、小学校から 11 校、中学校から 44 校、高等学校から 17 校、合計 72 校のご応募を頂戴いたしました。どの学校も、未成年者飲酒防止問題に真摯に向きあい、創意工夫し熱心にお取り組みされたものであります。そういった学校の中から最優秀賞を選定する審査は例年白熱した中で行われています。ご関係の皆様のご努力に敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。

本日までご出席をいただきました皆様をはじめ、キャンペーンにご応募いただきました全ての方々の思い、関係者の思いが「未成年者飲酒防止」の輪を広げ、この取り組みが更に充実、発展してまいりますことを心より祈念いたしまして、私のご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

＜東ちづる 審査委員長の講評＞

皆さんおめでとうございます。応募してくださって本当にありがとうございます。発表をうかがってとても刺激を受けました。これまではポスター部門とスローガン部門で可視化できるもの、わかりやすいものが注目されがちでしたが、団体としての賞をもっと膨らませたい思いがありました。今回、初めて学校賞だけに絞りました。審査は難しく、審査委員は色々なジャンルの人がいて、どこに重きを置くかで意見が分かれました。この審査は非常に面白く勉強になります。何がポイントになるかという、皆さんの発表の仕方です。想像以上に深くてユニークで、しっかりしたものでした。このまま PR として、企業や大学にプレゼンできると感じました。今の状況と課題と成果がすごくわかりました。是非、来年も再来年も続けていただき、他校へも提案していただきたいです。

先生から生徒へ「これをしなさい」と指導する、というのでは聞いたふりをして体には染み込みません。自分で理解して納得することがとても重要だと思います。そのためには、生徒たちが自分の頭で考えて、工夫して、実践して、同級生や後輩先輩・家族・地域の色んな人をどう巻き込んでいくかが重要だと思います。そして、実はこれが社会へ出てとても役立ちます。大人になって、いきなり主体性・自発性・能動性を発揮しなさいと言われてもできません。子どもの頃からこういった取り組みに参加していることが大きな力になっていきます。

そして、今日良かったと思ったことはお酒を悪いものにしていないことです。お酒は素晴らしい飲み物で、素晴らしいコミュニケーションツールです。大人になってお酒の場で仕事がまとまったり、恋や愛がまとまったり、色んな良いこともあります。問題はどうか付き合っていくかということです。事件や事故でお酒が関連していると、お酒が悪いとされることがあります。例えば、刃物を使った事件があった時に、「刃物が悪い」とはなりません、お酒の場合は「お酒のせいだ」と言われがちです。決してそうではありません。お酒には文明や文化など長い歴史があります。

発表の中で、「お酒を断れない生徒たちは自己肯定ができていない」という話がありました。自分のことを好きになれていないなど、もしかしたら何かがあるのかもしれませんが。社会の背景、家庭内の環境、生きづらさや満たされない部分があったりします。そのため、事件や事故が起こった時には表面的に一箇所だけを見ないで、色々な角度から見る力をつけていくチャンスにもなると思います。お酒は素晴らしいもので、大人になったらその場を共有して良いツールとして広げていければと思います。これからも未成年者飲酒防止教育の取り組みを続けていってください。他の学校にもどんどん PR してください。来年は応募数が増えることを願っています。おめでとうございます。

◇主催 : ビール酒造組合 ※1

◇共催 : 日本洋酒酒造組合 ※2

◇後援 : 国税庁、文部科学省、厚生労働省、内閣府、(一社)全国高等学校 PTA 協会、
(公社)日本 PTA 全国協議会、全国養護教諭連絡協議会、全国高等学校長協会、全国中学校長会
全国連合小学校長会、(公社)アルコール健康医学協会

※1ビール酒造組合とは…ビールメーカー5社で構成される特別認可法人です。

※2日本洋酒酒造組合とは…ウイスキー等メーカー72社で構成される特別認可法人です。

「2017 年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」受賞校一覧

●**小学校部門：受賞校一覧**

| | 学校名 | 都道府県 | タイトル |
|------|--------------|------|---------------------------------------|
| 最優秀賞 | 川口市立差間小学校 | 埼玉県 | ライフスキル教育としての飲酒防止教育 |
| 優秀賞 | 柳川市立皿垣小学校 | 福岡県 | 学んだことを実践できる子どもをめざして～体験活動を取り入れた飲酒防止教育～ |
| 優秀賞 | 名古屋市立神宮寺小学校 | 愛知県 | お酒って何もの？！ |
| 優秀賞 | 広島県三次市立作木小学校 | 広島県 | もし お酒を勧められたら何と言って断りますか？ |
| 特別賞 | 該当なし | - | - |

<最優秀賞>

| 都道府県 | 学校名 | 担当者名 |
|------|-----------|-------|
| 埼玉県 | 川口市立差間小学校 | 鈴木真由美 |

埼玉県 川口市立差間小学校

現在の学習指導要領の保健学習では、6年生での飲酒防止に関する指導は1時間になっています。小学校でも正しい知識を取得するために、保健と総合的な学習の時間と合わせ飲酒防止教育に取り組んでいます。家族の飲酒やアルコールのCMなど、児童にとっても飲酒は目にする機会が多いため、正しい知識を獲得し、自己肯定感、自己統制、自己主張、問題解決などのライフスキルの獲得を目指して飲酒防止教育を実践しました。

<取り組み内容>

総合的な学習のライフスキル教育の中で、飲酒防止教育に4時間を配当し、担任教諭と養護教諭が協力し、次の授業を実践しました(①アルコールの害と自分の体質を知るアルコールパッチテストの実施②「徒然草」に登場する一節、『酒は百薬の長、されども万の病は酒よりこそ起これ』の解釈③教師3人を相手に飲酒を勧められた時の断り方をロールプレイングで学ぶ演習④20歳の自分へ向けての手紙の執筆)。授業では、実物の清涼飲料水とアルコール飲料を活用した比較や、アルコールハラスメント対策に使えるグッズを用い、児童相互のアクティブラーニングになるように指導を行いました。

また、警察から講師を招き、喫煙・飲酒・薬物防止教室も行いました。他にも、各教室で休み時間にビールすごろくを活用し、楽しみながら正しい知識を学んでいます。今後は地域全体で小中学校の共通指導としていくことを考えています。

<発表の様子>



【小学校部門】(左より)鈴木 真由美先生、大森 遥嘉さん、渡辺 匠達さん
(川口市立差間小学校)

●中学校部門：受賞校一覧

| | 学校名 | 都道府県 | タイトル |
|------|-------------|------|---|
| 最優秀賞 | 安芸高田市立高宮中学校 | 広島県 | 地域の健康課題を共有しチームで取り組む飲酒防止教育 ～自分自身の問題として考え判断し行動できる生徒育成～ |
| 優秀賞 | 貝塚市立第四中学校 | 大阪府 | 生活委員会制作ビデオを使った小・中学校校区での飲酒防止啓発活動 |
| 優秀賞 | 蕨市立東中学校 | 埼玉県 | 飲酒・喫煙・薬物乱用防止キャンペーン |
| 優秀賞 | 鳥取市立北中学校 | 鳥取県 | 絵手紙を通して未成年飲酒を考える。 |
| 特別賞 | 広島市立段原中学校 | 広島県 | 未成年者飲酒防止の取り組み |

<最優秀賞>

| 都道府県 | 学校名 | 担当者名 |
|------|-------------|-------|
| 広島県 | 安芸高田市立高宮中学校 | 保田みどり |

広島県 安芸高田市立高宮中学校

本校の属する芸北地域(安芸高田市および山県郡)は、農家の割合が高く、祭や神楽が盛んな地域です。県内でも他の地域に比べて毎日飲酒をする人の割合が高く、節度ある適度な飲酒が課題とされていました。地域の行事に参加している生徒は身近な人と飲食を共にする機会が多く、発達段階に応じた飲酒防止教育や保護者への啓発を課題としていました。そこで、「未成年の飲酒について自分自身の問題として考え、判断し、適切に行動できる生徒の育成」の目標に向けて、飲酒防止教育を実践しました。

<取り組み内容>

地域における健康課題を受け、「芸北地域保健対策協議会こころの健康づくり事業未成年者飲酒防止教育資料作成委員会」が設置されました。その構成員の一人である高宮中学校の養護教諭が地域における未成年者飲酒防止教育の一環として、校内研修を行い、飲酒防止教育推進委員会を設置、PDCA サイクルによる取り組み(実態調査・心の健康づくり・飲酒防止を柱とする指導計画の立案・教材の作製・事後アンケートによる成果と課題の分析)を行いました。

学年ごとに飲酒防止教育の学習計画を作成し、第 1 学年では学級活動で「アルコールを正しく知ろう」というテーマで正しい知識の学習や、アルコールパッチテストや飲酒体験ゴーグルを活用した学習活動を実施しました。第 2 学年では道徳の時間に中学生の時期からの飲酒に起因するアルコール依存症になってしまった人についての資料から、未成年者飲酒のもたらす影響の深刻さを学びました。第 3 学年は保健体育の授業で飲酒体験ゴーグルを着用した体験活動を取り入れました。事後アンケートでは「酒の勧めを断る自信がある」と答えた生徒が授業前から 15%増加し、「自信がない」と答えた生徒は 70%減少しました。

保護者へのアンケートでも、多くの家庭で飲酒についての話し合いを持った結果が確認でき、適切な飲酒について考えるきっかけとなりました。

<発表の様子>



【中学校部門】(左より)保田 みどり先生、中村 夏未さん(安芸高田市立高宮中学校)

●高等学校部門：受賞校一覧

| | 学校名 | 都道府県 | タイトル |
|------|--------------------|------|---|
| 最優秀賞 | 新潟県立松代高等学校 | 新潟県 | 飲酒防止教育における取り組み |
| 優秀賞 | 山形県立新庄神室産業高等学校 | 山形県 | STOP!未成年者飲酒 ～生徒保健委員会の活動を通して |
| 優秀賞 | 愛知県立三好高等学校 | 愛知県 | NAUT (No Alcohol Under Twenty: 20 さい未満 はお酒を飲んではいけません) |
| 優秀賞 | 愛知県立一宮興道高等学校 | 愛知県 | 未成年者飲酒防止について、生徒保健委員会による文化祭での取り組み |
| 特別賞 | 学校法人真颯館 真颯館高等学校 | 福岡県 | 未成年者飲酒防止ポスターの制作 |

<最優秀賞>

| 都道府県 | 学校名 | 担当者名 |
|------|------------|------|
| 新潟県 | 新潟県立松代高等学校 | 村山真紀 |

新潟県 新潟県立松代高等学校

地域の行事などで大人が飲酒をする場面に居合わせるなど、生徒にとって飲酒が身近になっており、生徒への事前調査では約 23%の生徒が飲酒を経験していました。また、生徒の飲酒に関する知識不足、未成年者の飲酒容認度の高さ、飲酒を勧められても自信を持って断れない生徒が多いことがわかりました。

このような現状を踏まえて、飲酒が及ぼす身体的・精神的・社会的な影響を正しく理解させることにより、未成年の段階では飲酒をしないという判断力・態度を育てることを狙いとして飲酒防止教育を行いました。

<取り組み内容>

飲酒防止教育を行うにあたり第 1、2 学年を対象に、飲酒に対する意識や勧められた時の対応、飲酒経験などを聞く事前調査を行いました。その上で、第 1、2 学年共通で飲酒防止教育を行う日を設けました。「こんな時、あなたはどうしますか?」というテーマでケーススタディ、グループワークを通じ、個人的要因および社会的要因から飲酒のきっかけや背景を考える学級活動を行いました。その後、ビデオ視聴や外部講師を招いての未成年者の飲酒防止、依存症に関する講話での飲酒防止教育を実施しました。生徒の感想では「アルコールによって自分の人生を狂わせてしまうことがある」など、ビデオ視聴や当事者による講話から飲酒の怖さを受け止め、今後アルコールとどう付き合いしていくかを自分の問題として捉えた記述が多く見られました。

実施後は、事後調査を行ったほか、学級活動や講話の内容、生徒の感想を掲載した保健だよりを発行し、全校に対して共有を行いました。

<発表の様子>



【高等学校部門】(左より)村山 真紀先生、高野 明日香さん(新潟県立松代高等学校)

<過去応募数・審査結果について>

| | 応募総数 | 中学校 | | | 高校 | | |
|--------|--------|---------|---------|------|-------|---------|------|
| | | ポスター | スローガン | 学校賞 | ポスター | スローガン | 学校賞 |
| (第1回) | 3,176 | (1933) | (672) | (-) | (133) | (438) | (-) |
| (第2回) | 6,495 | (3273) | (2241) | (23) | (385) | (564) | (9) |
| (第3回) | 5,408 | (3702) | (1131) | (23) | (238) | (310) | (4) |
| (第4回) | 9,981 | (4951) | (2936) | (32) | (925) | (1125) | (12) |
| (第5回) | 11,168 | (4388) | (4084) | (32) | (630) | (2020) | (14) |
| (第6回) | 8,303 | (4801) | (1905) | (16) | (588) | (982) | (8) |
| (第7回) | 9,663 | (5132) | (3084) | (54) | (682) | (700) | (11) |
| (第8回) | 10,932 | (4524) | (3968) | (38) | (485) | (1908) | (9) |
| (第9回) | 7,846 | (4403) | (1519) | (14) | (892) | (1014) | (4) |
| (第10回) | 7,268 | (3,568) | (1,982) | (16) | (816) | (881) | (5) |
| (第11回) | 9,292 | (3,859) | (3,109) | (18) | (756) | (1,537) | (8) |
| (第12回) | 6,686 | (1,956) | (3,257) | (11) | (587) | (871) | (4) |
| (第13回) | 7,575 | (2,038) | (3,052) | (24) | (505) | (1,938) | (17) |
| (第14回) | 8,531 | (2,421) | (3,620) | (16) | (842) | (1,625) | (6) |
| (第15回) | 5,794 | (750) | (2,795) | (10) | (417) | (1,803) | (16) |

2017年度学校教育コンクール【学校賞のみ、小学校・中学校・高等学校の3部門】

| | 応募総数 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
|-------|------|-----|-----|------|
| 全応募数 | 72 | 11 | 44 | 17 |
| 1次審査 | － | 8 | 14 | 10 |
| 最終審査会 | － | 4 | 5 | 5 |

「2017 年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」 応募要項

- ◇名 称 : 「2017 年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」
- ◇募集期間 : 2017 年 7 月 3 日(月)～2017 年 9 月 29 日(金)必着
- ◇応募資格 : ●全国の小学校・中学校・高等学校
- ◇募集内容 : ●学校での「未成年者飲酒防止」に関する取り組みを募集
- ・ビール酒造組合のツール(ゴーグルやパッチテスト)を授業内や学校行事で活用
 - ・ビール酒造組合の教育ツール(ビールすごろく)を授業などで活用
 - ・学校で未成年者飲酒防止を訴求するポスター制作をクラスや学年単位で実施
 - ・校内で未成年者飲酒に関するアンケート調査を実施
 - ・保健委員会や学年、クラスの活動で掲示物を制作し、学校中に啓蒙活動を展開
 - ・地域の警察署や酒店などと連携し、学校で未成年者飲酒防止を考える時間を設ける
 - ・その他、未成年者飲酒防止に関わる学校での活動
- ◇応募方法 : ●書式、フォーマットは問いません。
- パンフレット裏面のエントリーシートもしくは、当日に使用されたもののコピーなどご応募ください。併せて、活動の様子がわかる写真があればご提供をお願いします(1～3点)
- ◇応募先 : 〒108-0023 港芝浦郵便局留め
「2017 年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール」事務局
※メールでの応募も受け付けています。camp@brewers.or.jp
- ◇報 奨 : 【最優秀賞 小学校・中学校・高等学校】
各 1 校 30 万円分相当の商品
- 【優秀賞 小学校・中学校・高等学校】
各 3 校 10 万円分相当の商品
- 【審査員特別賞 小学校・中学校・高等学校】
各 1 校 5 万円分相当の商品
- ◇審査委員 : 共催・後援の各団体と有識者で審査員会を構成し(審査委員長:東 ちづる氏)、厳選なる審査の上、入選校を決定します。
- ◇発 表 : 入選校には事務局より直接ご連絡いたします。
また、ビール酒造組合ホームページ上で発表いたします。
- ◇プレゼンテーション・表彰式 : 2017 年 11 月 23 日(木) 東京で開催予定
- ◇審査委員長: 東 ちづる氏(女優)
1960 年 広島県生まれ。
ドラマ、CM、コメンテーターのほか、講演、エッセイ執筆など幅広く活躍。骨髄バンクやドイツ平和村などのボランティア活動を20年以上続け、2012 年には一般社団法人「Get in touch」を設立し理事長を務めている。主な著書に「わたしたちを忘れないで～ドイツ平和村より」、エッセイ「らいふ」。
- ◇お問い合わせ先 : ビール酒造組合ホームページ : <http://www.brewers.or.jp/>
<過去の受賞作もご覧いただけます。>
学校コンクール事務局: 03-5443-1232(土・日・祝日を除く 10:00～18:00)

◇主催および共催・後援一覧：

主催：ビール酒造組合

共催：日本洋酒酒造組合

後援：国税庁、文部科学省、厚生労働省、内閣府、

（一社）全国高等学校PTA連合会、（公社）日本PTA全国協議会、

全国養護教諭連絡協議会、全国高等学校長協会、全日本中学校長会、

全国連合小学校長会、（公社）アルコール健康医学協会

＜本件に関するお問い合わせ先＞

2017年度未成年者飲酒防止教育 学校コンクール表彰式 広報事務局（電通 PR 内）

【TV】担当：森光 TEL：090-2555-7057 MAIL：nako.morimitsu@dentsu-pr.co.jp

【紙・WEB】担当：村上 070-1545-6966 MAIL：tomoko.murakami@dentsu-pr.co.jp